



第 5 号

発行所

大阪市史跡 龍溪禅師墓所

霊亀山 九島禅院

〒550 大阪市西区本田 3丁目4-18

☎06-582-5772

発行人

住 職 奥 田 啓 知 (智證)

アラブの二枚舌？

人事をつくせば 天命待てない日本人

戦争回避の努力もむなしく、とうとうイラク軍対多国籍軍との戦争が始まりました。当初、早期で終戦といわれた湾岸戦争も、泥沼化が懸念されています。多国籍軍とイラク軍との攻防は地上戦を前にして、原油流出作戦、毒ガスなど化学兵器使用の可能性など、予想さえ及ばない事態が心配されています。

アラブの人達の考え方の基本はイスラム教ののっとっています。聖戦、アラブの大義など日本人にとって理解しにくいのはなぜか、イスラム教の教えを通して、日本人を考えてみたいと思います。

イスラム教徒の慣用語に『イン・シャール・アッラー』があります。イスラム教徒は未来のことを約束した場合、必ずと言ってよいほど、この言葉を使います。「もし神が欲し給うならば」を意味する言葉ですが、これはイスラム教の教典『コーラン』

(18章23、24節)にこの掟が明示されているからです。すなわち「なにごとくも『私は明日それをする』などと言ってはならない。ただし、『神の御意(みこころ)ならば』と言い足せばよい」とあります。

たとえば、イスラム教徒と翌日の約束をするといいます。朝の八時に迎えに来い、と言います。すると相手は、「わかった、八時に来る。イン・シャール・アッラー」と答えるのです。そしてその約束が守られなくて、相手を責めると、彼は「イン・シャール・アッラー」と応じてくるのです。彼にすれば、神がここに八時に来ることを欲しておられないから遅れたというのです。要するに、日本人にすれば、この言葉は「どうなるかわからん」「保証できない」といった意味に使われているのですが、そう考えてはいけません。また、この「イン・シャール・アッラー」は、こういう言い訳・

弁解の時だけに使われるものではありません。約束がちゃんと守れたときも、彼らは神のおかげと感謝しているのです。このように、神に対する絶対帰依がイスラム教徒の基本的態度なのです。

『イン・シャール・アッラー』に近い言葉に、日本人の好きな「人事を尽くして天命を待つ」という格言があります。

「人間はやるべきことをやって人事を尽くせばあとは天命(人間の意思を超えたところで、人間の意思とは無関係なもの)を待たねばならない」という意味ですが、本音としては日本人は「天命」などをともとも信じていないように思えます。

われわれ日本人は一生懸命努力をすればするほど、その努力が報われなければ成らぬと考えているのです。一生懸命努力を



